学 生 議 会

質 問 通 告 書 一 覧

令和８年８月２１日

【発言の順番】

１番　鶴城中学校　仲原（なかはら）　そよ香（か）さん

「西尾駅をより明るく」

２番　福地中学校　榎本（えのもと）　莉彩奈（りあな）さん

「道路（自転車道）の整備について」

３番　にしお特別支援学校　田村（たむら）　魁斗（さきと）さん

「車いすでも気軽に外出できるまちに」

４番　一色中学校　安場（やすば）　奏元（そうげん）さん

「多世代交流につながる多目的公園の整備について」

５番　東部中学校　新海（しんかい）　夏芽（なつめ）さん

「河川や田畑のごみについて」

６番　佐久島しおさい学校　髙橋（たかはし）　伊吹（いぶき）さん

「佐久島の海について」

７番　幡豆中学校　岩根（いわね）　史弥（ふみや）さん

「ゼロカーボンシティの実現に向けて」

８番　吉良中学校　吉川（よしかわ）　陽葵（ひまり）さん

「いこまいかーを利用した西尾市の展望について」

９番　西尾中学校　宮村（みやむら）　悠生（ゆうせい）さん

「スポーツで市民の健康づくりを応援したい」

10番　寺津中学校　倉内（くらうち）　拓真（たくま）さん

「持続可能な西尾市に向けて」

11番　平坂中学校　牧（まき）　伽音（かのん）さん

「西尾市のごみ排出量の削減について」

１番

学生議会 質問通告書

【学校名：鶴城中学校】

ふりがな 氏　名	なかはら　そよか 仲原　そよ香	学年等	３年　　９組

テーマ	西尾駅をより明るく
現状や課題 意見・提案事項	現在、西尾駅東駅前広場の工事が進められています。西尾駅は西尾市の中心にあり、多くの人が利用する場所だからこそ、私は西尾駅を明るくすることが西尾市を明るくすることにつながると考えています。 西尾駅の中でも、私が特に明るくしたい場所は「おいでっき」です。私もおいでっきを利用したことがあります。ストリートピアノや本棚が設置され、さまざまな方に活用されていると感じていますが、その一方で、おいでっきは暗く閉鎖的な場所にあるので、一人での利用に不安を覚えることがあります。このため、おいでっきをより開放的で安心して利用できる空間にすれば、これまで以上に活用できると考えました。 そこで、３点提案します。 １つ目の提案は、西尾駅の改札口からおいでっきを抜けてヴェルサウォーク方面へつながる広い階段を設置することです。さらに改札口とおいでっきを仕切る壁をガラス張りにすれば、改札口からおいでっきの様子が見えるようになるので、安心して利用することができると考えます。また、新しく造る階段は岐阜駅のように季節に応じたイルミネーションを取り入れることで、より多くの人が集まるきっかけになると考えます。 ２つ目の提案は、おいでっきを通勤・通学者だけでなく、地域の人たちの憩いの場やにぎわいの場として活用するため、風情の感じられる空間にすることです。例えば、三重県の「おかげ横丁」や埼玉県の「川越」、岐阜県高山市の町並みのようなデザインにしてはどうでしょうか。具体的には、市の特産物である抹茶やうなぎなどを気軽に楽しめるお店や、バラやカーネーションなどの花を購入できるお店をつくり、落ち着いた音楽を流すことで、空間全体の魅力を高めることができると考えています。 ３つ目の提案は、高架下の活性化です。西尾駅を誰もが明るく楽しく、安全で安心して過ごせる場所にするためには、高架下の活性化も不可欠です。しかし、高架下には、空きテナントがあり、人通りも少なく、暗く雑然とした印象があります。こうした場所が残ると駅全体が明るくなったとは感じにくいです。 そこで質問をします。
質　問	１　西尾駅の高架下スペースの活用状況はどのようですか。 ２　おいでっきは、暗く閉鎖的な場所という印象がありますが、市の見解はどのようですか。 【再質問】

	おいでっきからヴェルサウォーク方面へ行くことができる広い階段を設置したり、改札口とおいでっきを仕切る壁をガラス張りにしたりすることで、おいでっきを誰もが安心して利用できる空間にしませんか。 ３　三重県の「おかげ横丁」のような、にぎわいのあるおいでっきになるよう通勤・通学者だけでなく、地域の人たちの憩いの場として活用しませんか。

2番

学生議会 質問通告書

【学校名：福地中学校　】

ふりがな 氏　名	えのもと　りあな 榎本　莉彩奈	学年等	３年　　３組

テーマ	道路（自転車道）の整備について
現状や課題 意見・提案事項	私は中学生になってから、自転車に乗る機会が増えました。今年の４月から自転車の交通ルールが厳しくなり、より安全に自転車を利用することが大切になっています。ですが、自転車道を見ると、十分に整備されていない所があると感じます。 菱池町池ぞい交差点から県道豊田一色線の東側の歩道では、北に進んでも南に進んでも歩道が途中でなくなっていたり、自転車道の真ん中にガードレールがあったりして、通りにくいところがあります。いずれも一時的に車道を走らなければならず、車との距離が近くなり、接触しそうで怖いと感じるところもありました。また、福地北部小学校南側のたんぼ道や長縄町周辺の県道西尾幸田線では雑草が生い茂っていて道がふさがって通りにくかったり、アスファルトがひび割れてでこぼこしていたりして、安全に走れる状況ではない場所が所々にあり、とても危険だと感じました。 「にしお未来創造ビジョン」の基本計画では目標２として「誰もがほっとする　持続可能なまち」という目標が掲げられており、道路の施策の中に「自転車・歩行者の安全確保のため、歩道整備などを進めます。」と書かれています。自転車の利用者や、自動車の運転手が安全に走行でき、歩行者も安心して歩ける道路環境を実現するために、雑草の除去や道路の舗装、ガードレールの設置の見直しを進めてほしいと考えました。 また、小、中高校生に通学に関するアンケートを取ってはどうでしょうか。特に、私たち中学生や高校生は通学で自転車を使うことが多いです。危険だと思う箇所などのアンケートをとり、実際の利用者の声をもとに整備を進めることで、より安全に走行できる道路になると考えます。道の幅を変えるのは難しいということは理解していますが、できることから解決策を考えていくことが大切ではないでしょうか。 そこで質問をします。

質　問	1　都市計画マスタープランの基本目標には「すべての人にやさしい都市づくり」が掲げられています。子どもも高齢者も、また、自動車、自転車、歩行者など、誰もが安心して道路を利用できるように、雑草の除去や道路舗装、ガードレールの見直しなどを行いませんか。 2　小学生、中学生、高校生から通学に関するアンケートを取り、利用者の声を道路整備に反映させませんか。 3　「にしお未来創造ビジョン」の基本計画の目標２「誰もがほっとする　持続可能なまち」の都市計画道路の整備率という指標では、2032 年の目標値は 2027 年から 1.2 ポイントの増加となっています。令和８年４月の道路交通法の改正に伴って、これらの計画の見直しを行う予定はありますか。

3番

学生議会 質問通告書

【学校名：にしお特別支援学校】

ふりがな 氏　名	たむら　さきと 田村　魁斗	学年等	２年１組

テーマ	車いすでも気軽に外出できるまちに
現状や課題 意見・提案事項	私は、西尾市吉良町に住んでいて、車椅子を使って生活しています。野球などのスポーツ観戦や好きな食べ物を買いに出かけることが好きです。 私の住む吉良町の家の周辺にあるバスや電車などの公共交通機関は、車椅子では通いづらい距離にあります。そのため、家族に車で送ってもらわないと出かけることができません。また、入り口に段差があったり、通路が狭かったり、車椅子では利用しづらいお店もあります。 車椅子を使う私たちは、自分の行きたいときに、行きたい場所へ気軽に出かけることが難しいのが現状です。家族に頼ることもできますが、将来、社会に出て自分の力で生活することを考えると、今のままでは不安に感じてしまいます。 車椅子を使う人だけでなく、お年寄りやベビーカーを使う人など、移動に不便を感じている人はたくさんいると思います。誰もが気軽に出かけて、買い物をしたり、人と関わったりできるまちは、みんなにとって暮らしやすいまちだと思います。 私には障害がありますが、自分にできることを生かして、社会に出てさまざまな人と関わりながら生活していきたいと考えています。そのために、気軽に社会参加できる場所や仕組みを増やしてほしいと思っています。 そこで質問します。
質　問	１　市内で利用できる「いこまいかー」や、福祉タクシーチケットの配布などの取り組みをされていることは知っていますが、他に福祉サービスはありますか。また、今後、どのように公共交通機関を整えていく予定ですか。 ２　車椅子を使う人でも気軽に入れるお店や施設を増やすために、西尾市がお店などに働きかけている取組はありますか。

4番

学生議会 質問通告書

【学校名：一色中学校】

ふりがな 氏　名	安場（やすば）　奏元（そうげん）	学年等	３年　　６組

テーマ	多世代交流につながる多目的公園の整備について
現状や課題 意見・提案事項	私の住む地域には、思いきりボールを使って遊べる場所がありません。一色町内で最も大きい公園は一色地域文化広場ですが、私たち一中生はそこでボール遊びをすることができません。私たちが全力でボール遊びをすると、同じ公園で遊んでいる小さな子どもや高齢の方の迷惑になってしまうからです。 この広場より狭い公園でも、同じ理由によりボールを使うことができません。 私たち自身も「もっと体を動かしたいのに」と感じていますが、放課後は誰かの家に集まってゲームをすることが多くなってしまっています。やりたい遊びを、安全に思いきりできる場所が近くにないことが原因の一つだと思います。公園は誰でも平等に使う権利があるため、私たち中学生は他の年代の方の安全に配慮しなければなりません。このため、私たちを含めた全世代がともに安心して体を動かせる公園の必要性を感じています。 多世代がともに多目的に使える広い公園、具体的には、小中学生が安全にボール遊びをしたり、十分に体を動かしたりできる広さを確保しつつ、未就学児や高齢者の方も安心して利用できる設備を備えた公園が必要だと考えます。 そこで質問をします。
質　問	１　全力でボール遊びができる公園を整備していますか。 ２　一色地域文化広場などの現在ある公園に、防球ネットの設置をしませんか。 ３　誰もが安全に体を動かすことができる大きさで、かつ、多目的に利用できる公園を一色地区に造りませんか。

5番

学生議会 質問通告書

【学校名：東部中学校】

ふりがな 氏　名	しんかい　なつめ 新海　夏芽	学年等	３年　　Ａ組

テーマ	河川や田畑のごみについて
現状や課題 意見・提案事項	私の家の近くには安藤川があります。毎日登下校で見ている下流では、特にごみが目立ち、雨が降って水位や川の勢いが増しても流されず、長い間留まっているように見えます。その様子を見ると、川に生息する生物たちの生態系が心配になり、やるせない気持ちになります。 また、ごみが多いのは安藤川だけでなく、周辺の川でも同じような状況が見られます。川は道路に比べて清掃が難しく、ボランティアによる活動も限られるため、ごみがたまりやすいのではないかと感じています。 私はこれまでに何回か、町内会長さんや先生、友達と一緒に地域のクリーン活動に参加しています。その中で西浅井町周辺の活動中に道路や歩道に捨てられたと思われるお菓子の袋やペットボトル、たばこの吸い殻などのごみが、風で飛んで畑や田んぼに散乱している様子を見かけました。しかし、私有地であるため勝手に回収することができず、土地の所有者が対応しなければなりません。道路沿いには常にごみが見られ、その負担は大きいと思います。 安藤川には多くの鳥が訪れ、私も通るたびに観察を楽しみにしています。生き物たちが安全に暮らせる環境を守るため、川や農地のごみを減らし、清掃活動を進めていくことが大切だと考えます。 そこで質問です。
質　問	1　西尾市の河川の清掃について、市はこれまでにどんな取り組みをしてきましたか。 [再質問](取り組みがある場合) その中で、現在も継続している取り組みはありますか。 2　道路沿いの畑や田んぼなど継続的にごみが捨てられてしまう場所に対して何らかの対策はありますか。 3　美しい自然を守るためには、市民みんなが環境問題に関心を持つことが必要だと思います。市として、子どもから大人まで楽し

	みながら環境について学び、行動できるようなイベントがありますか。あればその詳細を教えてください。

6番

学生議会 質問通告書

【学校名：佐久島しおさい学校】

ふりがな 氏　名	髙橋（たかはし）　伊吹（いぶき）	学年等	３年　　１組

テーマ	佐久島の海について
現状や課題 意見・提案事項	僕は、佐久島で暮らし、佐久島で学んでいます。家族は漁師です。僕は、後期課程１年の時、学校で「アマモ」という海草のことやアマモの生息域を広める活動について学びました。 アマモを増やそうという取り組みは１人の島っ子の「佐久島の海を豊かにしたい」という思いから平成 13 年に始まったものです。平成 18 年にはボランティアを募集して活動がスタートし、これまで 21 年続いています。アマモを移植し、新しいアマモの群生地を作ると、小さな魚の隠れ家になったり、アサリが育ちやすくなったりします。アマモの群生地を少しずつ増やしていくことで、佐久島の海の環境が良くなるはずです。 僕は、アマモを増やすために、アマモボランティアへ参加しており、学校では総合的な学習の時間を使って、水槽でアマモの育成にも取り組んでいます。実際に水槽の中でアマモを育てるには、海と水槽の環境をできるだけ近づけなければならず、藻の対策や温度管理が大変ですが、漁業資源を増やす努力をこれからも続けていかなければなりません。 また、佐久島の漁業をこれからも守っていくためには、漁場の整備と同時に、漁港施設の維持・更新が必要です。実際に漁を営む私の家族も、堤防の老朽化や、船を停泊させる場所に溜まったヘドロについて、不安を口にしていました。 そこで質問をします。
質　問	１　アマモボランティアを募集するために、これまでどのように周知してきましたか。 【再質問】 アマモのことを多くの人に知ってもらうために、ポスターを作成し、多くの人の目に留まる市役所や駅などに掲示しませんか。 ２　安全に船を停泊させるには、ヘドロの除去が必要です。西港では平成３０年にヘドロの除去が行われていますが、前回行わなか

	った箇所について、再度、ヘドロの除去を行う予定はありますか。 3　アサリとりに行くときに島の北側の海岸線の道路を通りますが、コンクリートがはがれ、自動車や自転車が通るとき、危険です。島民も観光客も通行しやすくなるように、道路を補修しませんか。

7番

学生議会 質問通告書

【学校名：幡豆中学校　】

ふりがな 氏　名	岩根（いわね）　史弥（ふみや）	学年等	３年　２組

テーマ	ゼロカーボンシティの実現に向けて
現状や課題 意見・提案事項	豊かな西尾市の自然と産業を未来へ残すため、今最も重要といえる課題が「ゼロカーボン」です。 「にしお未来創造ビジョン」を見ると、太陽光発電の設置件数が２０２７年度の目標１１２００件に対して、２０２０年は６９８３件で、１年あたり６００件ほど増やさなければいけない計算になっています。また、公共施設のＬＥＤ化による二酸化炭素削減量は２０２７年度の目標が４２５１ｔであるのに対して、２０２０年度は１９５ｔですので、７年で約２２倍の削減をする必要があります。この２つ指標は、現状値と目標値の乖離が大きく見えますが、目標達成はできるのでしょうか。 私は、これらの目標を達成し、市民と協力して活気あるゼロカーボンシティ西尾を築いていくことが、持続可能な街への第一歩であると考えています。その実現のため、次の２点提案します。 １点目は太陽光発電の設置を促すＰＰＡモデルを市が中心となって普及させることです。ＰＰＡモデルは事業者の負担で建物の屋根や敷地に太陽光パネルを設置し、建物・敷地の利用者は使った分の電気代のみを支払う仕組みです。初期費用や管理の手間が一切かからず、災害時の非常用電源にもなるため、市民が太陽光パネルを導入する大きなメリットがあります。契約期間終了後は設備がそのまま家に住んでいる人のものになるという長所もあります。 ２点目は、エコ活動でポイントが貯まる「環境アプリ」の開発です。エコバッグや公共交通機関の利用、ボランティア参加などでポイントが貯まり、西尾の特産品と交換できたり、市内施設で使えたりするようにします。アプリで個人のCO_2削減量を可視化したら、市民のモチベーションに繋がり、地域経済も活性化します。 そこで質問をします。
質　問	１　公共施設のＬＥＤ化の進捗状況はどのようですか。 ２　ＰＰＡモデルを活用して、西尾市として公共施設や一般家庭にソーラーパネルを普及させていく計画はありますか。 ３　市民が楽しく参加できる、環境アプリを開発しませんか。

8番

学生議会 質問通告書

【学校名：吉良中学校】

ふりがな 氏　名	よしかわ　ひまり 吉川　陽葵	学年等	３年　　６組

テーマ	いこまいかーを利用した西尾市の展望について
現状や課題 意見・提案事項	私は、西尾市が市内の人からも市外の人からも「住みやすくて魅力ある街」だと思ってもらえる街になってほしいなと考えています。しかし現在、西尾市の中心部は賑わっている印象を受けますが、私が住んでいる吉良地区をはじめ、一色地区、幡豆地区では人口減少がすすんでいます。吉良地区には金蓮寺といった国宝や自然豊かな自慢のロケーションがあります。生まれ育ち、思い入れのある地区だからこそ、人口が減少していく現状は悲しいです。人口減少がすすむ原因の一つとして交通機関が充実しておらず、移動が不便なことが挙げられます。私の自宅から最寄りの駅まで自転車でも１５分ほどかかり、不便に感じます。高齢者はわたしよりもっと不便に感じると思います。同じ西尾市内でも発展に格差が生じているように感じます。 そこで私は「いこまいか―」をもっと活用できないかと考えました。「いこまいかー」は高齢者の利用を想定したサービスだと思いますが、西尾市の発展のために利用方法について提案したいと思います。まず、高齢者を利用の中心として想定していると思いますが、私の地区に住む高齢者はタクシーに乗って買い物に行ったり、一人で買い物をしたりすること自体が大変そうな方が多いです。また、若者の視点でいこまいかーの利用を考えると「もっといろいろな場所に簡単に行けたらいいのに」といったニーズがあるかと考えます。アプリを利用して気軽に予約できたり、娯楽施設やカフェなど、自由に行き先が選択できたりすると利用が広がるかなと思いました。また、市外の方も利用できるようにしてはどうでしょうか。前述のように、吉良、一色、幡豆地区には魅力がたくさんあります。そういった場所に観光で西尾を訪れた観光客が簡単にアクセスできれば西尾市の発展につながると思います。また、経済がたくさん動くので、高齢者に対する支援の財源に充てることができるのではないでしょうか。 「住みやすく魅力ある西尾市」にするために質問をします。

質　問	1　いこまいかーは高齢者の利用を想定していると思いますが、年間でどの程度利用があるのでしょうか。また、いこまいかーを認知している西尾市民の割合はどのくらいでしょうか。 2「いこまいかー」は便利ですが、普及させすぎてしまうと他の公共交通機関の利用者が減少するといった懸念点があると思います。西尾市としては今後どのようにバランスをとりつつ「いこまいかー」を普及させていくビジョンをもっていますか。 3　高齢者支援はいこまいかーではなく、別のアプローチにするとして、いこまいかーの利用を若者向けにする構想はありますか。そういった場合、アプリとの提携などを考えているでしょうか。

9番

学生議会 質問通告書

【学校名：西尾中学校】

ふりがな 氏　名	みやむら　ゆうせい 宮村　悠生	学年等	３年　６組

テーマ	スポーツで市民の健康づくりを応援したい
現状や課題 意見・提案事項	私は、テレビのニュースや学校の授業を通して、スマートフォンと健康との関係について学びました。スマートフォンは勉強や情報発信に役立つ便利な道具ですが、使いすぎると脳への悪影響や睡眠の質の低下、運動不足につながることを知りました。 昨年度、西尾中学校で行われた学校保健委員会では、「中学３年生の４０％以上が平日１日３時間以上もスマートフォンを使っている」という結果が示されており、改めて外遊びや運動をする時間が減っていると感じています。これは、私の周りにいる大人にも共通する課題だと思いました。 また、子どもから高齢者まで世代を超えて地域でかかわりあうことも大切だと考えており、全世代でこの問題を改善するために、子どもから高齢者まで誰でも楽しめるスポーツ大会を開催してはどうかと考えました。競技は、玉入れやボッチャなど誰でも気軽に参加できる内容とし、ポスターやイベントアプリを活用して参加者を募集します。また、参加者には西尾市の特産品のクーポンを配付してはどうでしょうか。 それと同時に、イベント会場までスタンプラリーができるウォーキング企画を実施したり、会場に西尾グルメキッチンカーを呼んだりします。こうした取り組みは、子どもから高齢者まで地域の幅広い世代がかかわり合うきっかけとなり、参加者は健康づくりだけでなく、改めて西尾市の魅力に気づくことができます。このようなイベントを通じて、市民が楽しく体を動かし、スマートフォンとの上手な付き合い方を考えるきっかけになればよいと思います。 そこで質問をします。

質　問	1　今までに、子どもから高齢者までを対象にしたスポーツ大会を開催したことがありますか。 2　スポーツ大会の参加賞として、すでに普及している公式 LINE を通し市内のお店などで使用できるクーポンを配布しませんか。 3　公式 LINE などのアプリでウォークラリーやスポーツ大会などの参加記録が保存できるアプリを作成しませんか。

10 番

学生議会 質問通告書

【学校名：寺津中学校】

ふりがな 氏　名	くらうち　たくま 倉内　拓真	学年等	３年　　１組

テーマ	持続可能な西尾市に向けて
現状や課題 意見・提案事項	私は、西尾市や寺津地域に、もっと多くの人が集まり、これからも発展していってほしいと考えています。そのために、観光業に力を入れることや運動施設を拡充することが大切だと思います。そこで２つ提案します。 １つ目は、寺津の観光名所の魅力を発信することです。西尾市には、年間約４００万人の観光客が訪れています。しかし、私が住んでいる寺津地域では、観光客をあまり見かけません。西尾駅周辺には抹茶のお店があり、一色町には魚市場がありますが、寺津地域には観光客が集まる場所が少ないように感じます。 例えば寺津地域には、枯木宮貝塚という愛知県の指定文化財があります。西尾市が保管している出土品などを活用して、枯木宮貝塚の歴史や魅力を伝える施設をつくってはどうでしょうか。寺津にしかない魅力を発信することで、観光客が増えるきっかけになると思います。 ２つ目は、運動施設を充実させることです。西尾市にはきららテニスコートという立派なテニスコートがあります。自分もテニス部としてきららテニスコートを使用した際に、とてもいいテニスコートだと感じました。このような立派な運動施設を西尾市内全体で増やし、西尾市を盛り上げるのはどうでしょうか。 また、スポーツほどではなく、日常的に体を動かすことができる場所を増やしてほしいです。例えば、ボール遊びのできる公園などを寺津地域や西尾市内にもっと増やすことで、市民の健康寿命も延び、より持続可能な西尾市になると考えています。
質　問	１　寺津地域に観光客が増える施設などを設置する施策は何か考えていますか。 ２　寺津地域をはじめ、西尾市全体に運動施設やボール遊びのできる公園など、日常的に体を動かすことができる場所を拡充する予定はありますか。

11 番

学生議会 質問通告書

【学校名：平坂中学校　】

ふりがな 氏　名	牧（まき）　伽音（かのん）	学年等	３年　　５組

テーマ	西尾市のごみ排出量の削減について
現状や課題 意見・提案事項	私は一昨年から、「清走中」というボランティア活動に参加しています。これは、一色のさかな広場などで、ゲーム感覚で楽しくごみ拾いを行う取り組みです。現在、西尾市の家庭ごみ排出量は県内でも下位に位置しており、2022 年（R4 年）までは 9 年連続でワースト 1 位でした。2021 年（R3 年）には、1 人 1 日あたり 623g の家庭ごみが出ており、これはバナナ 3～4 本分に相当します。順位は改善したものの、依然としてごみの多さは課題です。そこで、可燃ごみの中身を調べてみると、約 4 割が紙やプラスチックなど、本来リサイクルできるものでした。資源として活用できるものが、ごみとして処理されている現状があります。また、ごみが増えると、燃やした後の灰が増加し、最終処分場（埋立地）の不足を招く恐れもあり、このままでは全国の埋め立て地が約 25 年で満杯になるとも言われています。 第 3 次西尾市環境基本計画を策定したときの小・中学校を対象としたアンケート調査では、約 86%の中学生が「ごみはきちんと分別して捨てている」と答えています。一方で、分別を徹底できない理由として「方法がわからない」「手間がかかる」などの声を私は聞いたことがあります。 私は親が納豆のパックなどを洗ってリサイクルに出したり、使った油を石鹸として再利用したりしているので、どうしてリサイクルが進まないのか不思議に思っています。 そこで質問します。
質　問	1　西尾市のごみ埋め立て地は、あとどのくらいで満杯になる見込みでしょうか。 2　「分別方法がわからない」といった声がある中で、市は、どのように分別方法を市民に周知していますか。また、その効果は出ていますか。